

今回は、関飛行場に関する地域研究部の活動報告です。

◇ 県大会や全国コンクールで、最優秀賞を受賞しました！

全国高等学校総合文化祭岐阜県大会地域研究部門 最優秀賞

- ・主催 岐阜県高等学校文化連盟
- ・内容 「まぼろしの関飛行場」
- ・形式 提出論文の審査
- ・備考 次年度、全国高等学校郷土研究発表大会に岐阜県代表として出場予定。

全国高校生歴史文化フォーラム 最優秀賞

- ・主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
- ・内容 「関飛行場及びその関連施設の調査 陸軍秘匿飛行場の作戦構想とその実態」
- ・日時 2022年2月27日(日) 12:30~17:00
- ・会場 文化の森イベントホール
- ・形式 全国コンクール上位4校、徳島県代表2校による口頭発表。
発表者はオンライン形式での参加。

◇ 関飛行場とは何であったか

関高校からほど近い関市大杉から美濃加茂市稲辺、坂祝町深萱の地で、陸軍飛行場の建設が開始されたのは、日本敗色が濃厚となった1944(昭和19)年12月のことです。工事は翌年2月から本格化し、4月には陸軍の単発機や双発機が滑走路から飛び立ったそうです。

飛行場建設の当初の目的は、敵襲に備えての航空兵力の分散化でしたが、1944年6月のサイパン陥落後は本土防衛のための防空拠点として、さらに1945年3月の硫黄島陥落後は、本土決戦に備えての特攻基地としての役割を与えられていたことが、今回の研究により明らかになりました。

地域研究部では、旧防衛庁がまとめた戦史、防衛省データベース、関係自治体史を調べるとともに、滑走路跡や周辺に残る地下壕などの遺構の踏査・測量を行い(上写真)、さらに当時を知る高齢者の方々からの聞き取り調査を行いました。



一ツの鉾にも真心こめて
……
空襲を念じつゝ、飛行機増

飛行場からほど近い坂祝には、川崎飛行機の分工場が設けられ、関高校の前身にあたる武儀高等女学校の女学生も動員されたとのことです。『関高等学校創立五十周年史』には、飛行機工場では機体の鉾どめ作業に従事する当時の女学生の写真が掲載されています(左写真)。さらに、武儀高等女学校は、米国本土を空襲するために計画された「風船爆弾」製造にも、大きく関わっています。

戦争体験が風化する中で、この地域に陸軍飛行場があったこと、女学生が飛行機や風船爆弾の製造に動員されたことは忘れ去られ、地下壕の痕跡も地上から消えようとしています。今後は、さらに調査を進めると同時に、保全や活用に関する活動も進めていく予定です。